

今週（1月15日から1月18日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、日銀当座預金残高が386~387兆円程度で推移した。無担保コールO/N物は、15日は積み最終日となり、調達サイドで積み終わった参加者と積み残しがある参加者でスタンスが分かれ、出会いレンジは▲0.08~▲0.02%とワイドとなった。16日以降、新積み期に入ると、調達サイドは様子見姿勢が強く、取り急ぐ動きも見られないことからレート、出来高ともに低下するなど、直近の積み期序盤の傾向通りの動きとなった。新積み期に入ってから試し取りが散見されるようになり、17日には一部の先でプラスレートでの試し取りが見られた。ターム物はショートタームで▲0.04%近辺の出会いが散見された。

固定金利方式の共通担保オペは18日に2W・8,000億円がオファーされ、落札額1,706億円(期落ち額1,796億円)となった。

●レポ市場

今週のGC O/N物は、概ね▲0.165~▲0.120%程度の水準で推移した。

SC個別銘柄では、5年130~138、10年335~353、20年160~166、30年55~61、40年6~11などカレント近辺の銘柄にビッドの出入りが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、短国買入オペで市場予想を上回る増額があったことや、堅調な債券相場などを反映し、週を通して強含みのマーケットとなった。

16日に実施された短国買入オペは、市場予想を上回る5,000億円(前回比+4,000億円)でオファーされた。オペ通告後に3M物で▲0.177~▲0.175%での出会いが見られるなど、平均落札利回較差▲0.003%、按分落札利回較差▲0.006%と増額の影響もあってか堅調な結果となった。

17日に実施された1Y物の入札は、WI取引において▲0.175%での出会いが見られる中、平均落札利回▲0.1781%、按分落札利回▲0.1741%とWI取引を反映してしっかりした結果となった。セカンダリーでは、▲0.200~▲0.194%での出会いと強含みで推移した。

18日に実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.178%から▲0.190%まで買い進まれる展開となる中、平均落札利回▲0.1880%、按分落札利回▲0.1804%と前回債からレートが低下する強含みの結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは、新発3M物が一時▲0.210%まで買い進まれるなど、全般的に強含みの展開となっている。

●CP市場

今週のCP市場は、鉄鋼や卸売、小売等の業態でまとまった額の調達が行われ、週間償還総額2,700億円程度に対し、発行総額は6,100億円程度と発行超のマーケットとなった。12月末日に一旦、18兆8,000億円台まで落ちた市場発行残高は、年明け初日から20兆円台に回復し、一部ノンバンクの大口期日があったにもかかわらず、17日時点では20兆6,412億円に達している。足元の市場残高の増加に伴い、マイナスレートで積極的にCPを購入する姿勢は後退し、発行レートは若干切り上がり、0%から僅かなプラスで決着している。

16日にはCP等買入オペが2,500億円オファーされた。前回のオペから2営業日しか空いていないこともあり、結果は平均落札レート▲0.001%、按分落札レート▲0.002%と、前回比(平均0.003%、按分▲0.001%)で平均、按分ともに低下した。

●短期金融市場関連指標

	日経平均(円)	新発10年物 国債利回り(%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
1/14(月)						
1/15(火)	20,555.29	0.010	108.36	△0.062	△0.123	3,861,800
1/16(水)	20,442.75	0.002	108.46	△0.068	△0.147	3,877,800
1/17(木)	20,402.27	0.003	109.02	△0.062	△0.154	3,864,600
1/18(金)	20,666.07	0.006	109.35	△0.067	△0.144	3,869,600

来週（1月21日から1月25日）の短期金融市場動向

● 経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定		海外主要経済指標
1/21 (月)				New York祝日 (Martin L.King Jr.'s Day)
1/22 (火)	日銀政策委・金融政策決定会合(1日目 14:00~)	流動性供給 4,000億円 1/23発行	交付税借入 10,500億円 1/30借入	12月の米中古住宅販売
1/23 (水)	日銀政策委・金融政策決定会合(2日目 9:00~) 日銀総裁定例会見(15:30) 経済・物価情勢の展望 12月の貿易統計(財務省 8:50)			
1/24 (木)	11月の景気動向指数改訂状況(内閣府 14:00)	20Y 10,000億円 1/25発行		ECB定例理事会(金融政策発表)
1/25 (金)	1月の都区部消費者物価指数(CPI 総務省 8:30)	TB3M 43,400億円 1/28発行		12月の米新築一戸建て販売件数 12月の米耐久財新規受注

● 資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
1/21 (月)	1,700	▲ 20,000	▲ 18,300	全店共通 CP買入	▲ 1,800 ▲ 300	1,700 2,500	2,100	▲ 16,200	TB3M発行▲43400償還26600 TB1Y発行▲21000償還22600 流動性供給▲6000 変動15Y償還4900
1/22 (火)	1,000	▲ 1,000	0				0	0	エネルギー対策借入▲5000期日5000
1/23 (水)	0	▲ 3,000	▲ 3,000				0	▲ 3,000	流動性供給▲4000
1/24 (木)	▲ 1,000	▲ 4,000	▲ 5,000				0	▲ 5,000	交付税借入▲10500期日10500
1/25 (金)	▲ 1,000	▲ 1,000	▲ 2,000				0	▲ 2,000	20Y発行▲10000
週間合計	700	▲ 29,000	▲ 28,300	—	▲ 2,100	4,200	2,100	▲ 26,200	

1/21は日銀予想、1/22以降は当社予想

● 短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、引き続き参加者の資金調達ニーズが弱く、レートは低位横ばいの推移が予想される。レポ市場は、参加者のスタンスに大きな変化がなければ引き続きレートは横ばい圏で推移すると見られる。短国市場は、25日に3M物の入札が実施予定となっている。強含みの地合いの中、オペのオフアール額を含め、市場動向が注目される。CP市場は、発行残高のさらなる拡大が注目される。発行レートについては発行残高が高水準で推移していること、直近のオペのレートも浅いマイナスで膠着していることもあり、深いマイナスでCPを購入するニーズは弱く、引続き0%近辺が目線となることが予想される。

主要なイベントとしては、国内では22～23日に金融政策決定会合、海外では21日に10-12月期の中国GDP、24日にECB定例理事会等が予定されている。

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。